

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。〔17番 古畑浩一君登壇〕

○17番（古畑浩一君）

それでは、これより一般質問をさせていただきます。

本日、もう既に5人目ということでね、皆さんお疲れのこととは思いますが、もうしばらくお付き合いをよろしく願いをいたしたいと思えます。

それから、先ほどね、和泉議員のほうから追悼のお言葉あったんですけど、市議員を3期続けられた古川 昇氏の突然の、まさに急逝でございますが、その言葉が、私、今の今まで知らなくて、本当にショックを受けております。頭の中にあっという間な一般質問のね、言葉が全部吹き飛んでしまってますが、それでも一般質問をさせていただきたいと思えます。

本当に、返す返すも残念です。死ぬ間際までね、ソフトボールの練習とかして元気だったと聞いておりますので切ないですね、本当に。我々生きてる間にね、生きてる人間がこれからの糸魚川のことを一生懸命考えて、一生懸命やっぱり生きていこうと思えます。皆さんよろしく願いいたします。

それでは、「消滅可能性自治体」脱却と対応策について。

- (1) 消滅可能性自治体からの脱却策をどのように展開するのか。
- (2) 人口減少、少子高齢化社会のデメリットをどう考えるのか。大型イベントや祭りなども含めてお答えいただきたい。
- (3) 行財政改革と組織の見直し、財政縮小を断行していくべきではないか。
- (4) 15億円で建設予定の子育て支援複合施設などの大型事業は、将来的な財政面や未満児保育、給食の無料化など、各種制度の充実を考えて、行財政改革も含め、もっと市民説明の上で進めていくべきではないのか。
- (5) 医・職・住に対しても、さらなる制度の拡充を図るべきと考えますが、いかがか。
- (6) 糸魚川総合病院の経営危機など、コロナ後の影響や人口減少により、危機的状況の地域医療をどう守っていくのか。

2、権現荘民間移譲について。

- (1) 権現荘無償譲渡が、なぜ9,000万円もつけての譲渡となったのか。
- (2) その譲渡契約については、もっと慎重に行うべきではないか。
- (3) 権現荘は直営・指定管理・民間移譲へと変わっていくが、その経緯と市長としての運営責任を明確にすべきではないのか。

最後に、次期市長選への出馬につきまして、どうお考えなのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、引き続き市内一丸となって、若者や女性の定着に向けた取組を進めてまいります。

2 点目につきましては、様々な分野において、担い手不足や規模の縮小が見込まれ、労働力や生産性の低下、祭りなどの伝統行事の継承が困難になると多方面に影響が出ると捉えております。

3 点目につきましては、人口減少、少子高齢化などの課題に対応し、持続可能なまちづくりを推進するため、行財政改革の取組や効率的な組織体制への見直しを行い、引き続き健全な行財政運営に取り組んでまいります。

4 点目につきましては、事業の市民周知は重要と考えており、引き続き機会を捉え、市民に説明してまいります。

5 点目につきましては、総合計画を着実に推進することにより、持続可能なまちづくりを進めてまいります。

6 点目につきましては、地域医療構想を基にした上越圏域における医療機関の役割分担や、病院経営を含めた連携体制の構築等を早期に進展させ、地域に必要な医療提供体制の維持・確保に努めてまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、あくまでも無償譲渡であり、権現荘の設置目的や機能を引き継ぐための施設修繕相当額として 9,000 万円を補助することで合意いたしましたものであります。

2 点目につきましては、令和 5 年 12 月に一般社団法人アッサンを譲渡先候補者として決定し、以降、財政支援に係る交渉や経営能力、資金状況の確認など、契約に向けて慎重に進めてきたものであります。

3 点目につきましては、当初は直営で運営を行い、平成 29 年度からは指定管理者による運営を行ってまいりました。その後、利用者の減少や施設の老朽化による維持管理費の増加などの影響により、令和 5 年度からの指定管理者に応募がなかったことから、民間事業者への譲渡を進めてきたものであります。

なお、これらの経過は、その都度議会へ状況を説明いたしております。

3 番目につきましては、任期最終年度の年ではありますが、まだ半年ありますので、様々な課題に向けて全力で残りの任期を務めていくことを第一に考えておりまして、現在、去就についての考えはありません。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17 番（古畑浩一君）

それでは、順番を変えまして、次期市長選への出馬をどう考えているのか。

本年度でね、本年ね、いわゆる市制施行、いわゆる合併してから 20 年たとうとしてます。その 20 年間はさ、全て米田市長、あなたが市長をやってます。一つの区切りとしても、やはり通常の、市長の中でね、やっぱり 5 期というのはかなり長いと思うんですよ。

それでだ、やっぱり 5 期 20 年もやった市長としましては、その進退を明確にすることによって、やっぱりこれからの時代を切り開いていく皆さん、新たな指導者に対して道を開くべきではないでしょうか。もう一度そのお考え、それから、やっぱりはっきりしたほうがとてもよろしいと思いま

すよ。次やるんならやるで、意欲を語るなり、辞めるんなら、引退するなら引退するまでの来年の4月まで、私は全力を尽くしてやりたいとか、様子見でさ、出ようか出まいかというのはもうやめましょうよ。もうさあ、今9月議会ですよ。今までの市長さんですとね、遅くともこの9月の間には出馬の是非を語ったもんですよ。だからその辺につきまして、これはやっぱり男らしくね、しっかりと、何だろう、話をすべきだと思いますよ。決断をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

先ほどの答弁にありますように、課題について今しっかり取り組んでいきたいということでございますので、現在は去就を考えてはおりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

いよいよ消滅可能性都市、また言われてきますとね、糸魚川市は20年たって、新たな展開、新たな、何だろうな、リセットをして、全てはやっぱり新しく考え直していかなくちゃいけないと思う。合併当時のね、5万人だった頃の考え方と、これから4万人、そして10年後には3万人を切るだろう。それに合わせた総合計画や行政運営を、やはり私は考えていかなければならないと思うんですよ。

じゃあまず1点目のね、消滅可能性自治体からの脱却策をどのように検討されてきたのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

6月の総務文教常任委員会の場合でも、人口減少対策プロジェクトについてということでご報告をさせていただきました。その際に、消滅可能性自治体となったことへの対応といった項目も、人口減少についての市民への周知ですとか、また、市民が幸せを感じる、幸福度を高める取組の研究、または脱却した自治体の取組研究といったことも上げさせていただきました。それ以外にも、若者、それから特に女性の定着促進といった項目について、調査研究していくといったところも上げさせていただいたところでありまして、1回目の市長答弁でも、その辺りを申し上げさせていただいたものというふうに思っております。

先般も、総務文教常任委員会の柏崎市の視察にも同行させていただきました。具体的には、柏崎市さんでも、この施策によって脱却したというのは、明確にはお答えいただけなかった。なかなかそういったところをお示しするのは困難だといったお話であったかと思っております。

また、状況については、脱却したからといって大きく変わったところではないといったご意見もいただいたところであります。引き続きそういった他市の事例も参考にしながら、また研究して、人口減少対策のほうに取り組んでいきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

柏崎市の話はね、これからゆっくりやっていきたいと思えますけどね。

そこで、ちょっと数字的なものをね、お示しいただきたいんですが、この20代から30代までの若い女性、この現状の数と、10年後、これからの推移はどのように変わっていくと分析されておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

すいません、今手元にある数字が、消滅可能性自治体となったことの数字ということで申し上げさせていただきますと、10年後といえますか2020年から2050年までの30年間に、20から39歳までの女性の数が、糸魚川市の場合、2,645人から1,181人、これが国立社会保障・人口問題研究所の推計による女性の数が減るといった数字になっております。パーセンテージでいきますと44.7%になる。減少数は1,464人減少するといった推計でございます。

○17番（古畑浩一君）

減少率のパーセンテージ、おかしくないか。50%で1,302か3ぐらいやろ、1,181という四十何%のわけないじゃん。

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

〈午後3時18分 休憩〉

〈午後3時18分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

結局、今ほど数字を示していただいたんですが、いま一つぴんときませんね。同じ質問なんですが、もう一度。

それから、減少率で換算した場合はどのぐらいの数字になるのでしょうか、お答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

すいません、2020年から2050年の20から39歳の女性ということで、減少率でいきますと55.3%ということになります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これね、やっぱり検討してないでしょ。これさ6月だったら、これでこの数字を基に成るけど、やっぱり消滅可能性都市から脱却して、今柏崎の例も出したけど、やっぱりね20代から30代の若い女性のいることを想定して、この数字が、何だ、人口戦略会議のほうは出してるんですね。だからだ、いいですか、みんな30年後の数字じゃなくて、5年、10年、15年、20年と出していかないと、目標とする数値だとか減っていくもの、それいいか、ね、突然30年後に半分になるんじゃないんですよ。その段階的にどんどん減っていくわけだ。そのやっぱり必要性というものをもっと危機感を持って感じてほしいと思うんですよ。

それから、出生率の低下と相まって、この減少の理由がね、女性が定着してこない理由が、東京一極集中が加速度的に強まっている現状というものがあります。これをこの人口戦略会議では、ブラックホール型自治体と呼んでおります。このブラックホール型自治体というのは、ご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今回の持続可能性分析レポート、当市が消滅可能性自治体となったことのレポートによりますと、新たな分析として、9つの分類分けをしております、その中の一つがブラックホール型自治体といったことでもあります。ブラックホール型自治体というのは、東京都区内の自治体が多く選ばれているといったこともあります。移動過程におけます若年女性の減少率が50%未満ではあるが、封鎖人口による減少率が50%以上の自治体は、人口の増加分を他地域からの人口流入に依存していると。そういった意味で、ブラックホール型他自治体といったような定義で呼んでいるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

このブラックホール型ってのは確かに恐ろしいんですよ。出生率はさ、0.9で1%を切ってるくせに、人口はどんどん増えてる。これ何でかという、沿線というか、そういうほかの地方自治体からどんどん人口を引っ張っているんです。分かる、そこで産んだり育てたりしないで、ある程度大人になった方々を全部そこに引っ張り込むんですね。だからブラックホールというのは、やっぱり多分この人口戦略会議も非常に危機感を持った名前のつけ方だろうと思うんですよ。一極集中じゃあもう甘いということで、ブラックホールと今度来たんだろうと思うんですけど。我々の敵はね、こうしたブラックホール型、あらゆる、これは東京、大阪、札幌、名古屋と、そういう大都会が指定されてるんです、京都だとかね。そこと対抗していかなくちゃいけないのに、よっぽど魅力ある女性定着のためのポイントというものをつくらなくちゃいけない。

柏崎市は、たまたまと言いつつも、様々な施策をやっているんです。要するに、それをやることによって、功を奏した。特別何かやったわけじゃないけれども、総枠で出生率の低下や若者の定着や女性対策に力を入れた結果なんです。何も特殊なことをやってませんの、その裏側にあるものをよく読んでほしいと思うんですよ。

それでね、消滅可能性自治体、糸魚川の消滅まであと30年のカウントダウンが始まる。既に人口減少による様々な影響が出始めております。企画定住課任せではなくて、各課ごとに人口減少と、その対策をどうするのかお聞かせください、全員ね。

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員、各課ごと、こちらから。

○17番（古畑浩一君）

そしたら、こっちの部長からいきましょうか。市長と副市長はいいですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺 忍君登壇〕

○市民部長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

市民部という立場でお答えをさせていただきますが、やはり市民部といたしましては、高齢化社会に向けて、いわゆる健康寿命というのの定着というか、健康寿命を延ばすというのが一つの、いわゆる人口を保つという意味では一つの方法かなと思っておりますし、あと税制等々のいろんな処遇等、補助も含めてですけども、糸魚川に帰ってきていただける、住みやすいというような制度の策定というのも一つの方法かなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋総務部長。〔総務部長 大嶋利幸君登壇〕

○総務部長（大嶋利幸君）

総務部といたしましては、庁内の管理部門を受け持っております、特に人口減少に伴う税収の減ですとか、あと、地域づくりにおける地域の担い手不足等、いろんな影響が出てくるものと思っております。

あと、女性の観点といたしましては、一部報道でもありますように、やっぱり女性が地方から離

れる要因としましては、地方への忌避感ですとか就職、あと結婚による移動、あと都会への憧れ、そういうのはいろいろあるんですけども、そういうものから脱却すべく、女性にも安心して勤められるような就職先、企業の誘致を含めた総合的な戦略が必要になってくると思っております。

いずれにいたしましても総務部といたしましては、庁内のこの人口減少対策の旗振り役といたしますか、調整役としての役割を果たしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐産業部長。〔産業部長 五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

産業部を中心に答えます。

産業部では、実際に糸魚川に暮らしていくこと、それも安心して暮らしていけることということ、その次には、糸魚川で暮らしていくためには、ちゃんとそこでなりわっていくこと、そういう働くことというところを受け持っております。

もう一個は、糸魚川に少しでも多く外貨を稼げるように人を呼ぶこと、そういうところを所管しておりますが、なかなかその効き目というのが、柏崎市さんではいろんな施策をやっているところですけど、まだいろんな施策を打っている成果がまだ見えていない状況。

もう一個、ほかの部とは少し異質なのが、これ人口減少、増やす取組ではなくて、ある程度、確実にやってくる、もう人口が少なくなった状態に対応する状況等、都市計画の部分で担っておるといのが、私どもの取組でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山本教育次長。〔教育次長 山本喜八郎君登壇〕

○教育次長（山本喜八郎君）

お答えいたします。

教育分野での答弁をさせていただきたいと思っております。

やはり糸魚川で安心して子供を産んで、育てる、育てられる環境整備というのが大事だというふうに思っております。

また、今、糸魚川市では、0歳から18歳までの子ども一貫教育を推進しているところであります。その年代年代で、その子供たちの成長に応じた教育、それを学校だけではなく地域、それから園、保護者、行政が一体となって取り組んでいく必要があるというふうに考えております。

また、子供たちには、やはりここに住んでいて、愛着と誇りを持てるような教育を推進していくことが大事だというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

消防本部といいますか、消防防災といった面でお答えさせていただきたいと思います。

やはり今盛んに一般質問等でも出ております、災害等発生した際の、要は自助・共助の担い手、地域防災力の低下が懸念されますし、また消防団員、今も減少しておるんですが、消防団員、若手の消防団員がいなくなって、だんだん、だんだん少なくなっていくといったようなことが懸念されます。その中で消防本部といたしましては、なかなか人口増加の一手というのはちょっと厳しいものがあるかなと思うんですが、私、今常々言うのが、今30名ほどおりますこども消防隊、卒隊する際には、地域防災力を担っていただきたいといったような挨拶をしていただいて、1人でも2人でも残っていただければなといったようなところで取り組んでいるところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員、全部長、答えましたけれども、個別に。

〔「まあいいわ。議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

本当はね、もうこの機会、全課長さんたちにやっぱり、この人口問題をどう捉えて、どうしていくのか。これからいよいよ来年度の予算編成に入っていきます。でね、人口問題というとき、企画にばかり任せるのではなくて、自分たちのエリアの中で考えたときに、どうやっていかなくちゃいけないかってことをやっぱり考えていってほしいと思うんですよ。

やっぱりね、生産人口がもう激減していく。人材確保が厳しくなっていく。農林水産業の後継者もどんどん不足していく。労働者不足による企業の存続すら危機になってきております。バスや鉄道、タクシー代行などの公共交通の維持、これも難しくなってます。それから祭りやイベント、サークルやスポーツ団体等の維持が困難になる。これやっぱり各所で悲鳴が上がっています。

さらには、いわゆる高齢化による老老介護、それがさらに進んで独り暮らしの老人。それから、もうつい最近も私の身近でありましたけども、いわゆる孤独死ですね、発見に3か月もかかってしまいました。もう、うちの中で、くるんでいたのを誰も気づかなかったんですけどね。こういうことが、ごく頻繁に起こるような深刻であります。

先を急ぐんでね、やっぱり結論から言うと、やっぱり市長、思い切ったコンパクトシティ構想を強く進めていかなければ駄目です。これだけ、もう東京23区と同じ面積のある糸魚川市、これを全部整備しようとする、とんでもないお金と時間と人手がかかります。だから、拠点性を整備して、コンパクトシティをやることをやっぱり常に念頭に置いて進めるべきだろうと、私はそう思います。

それから、行財政改革と組織の見直し。財政縮小をやっぱり断行すべきじゃないかと。この一つとして、もうこの際ね、部長制を廃止して、課長を中心とした総がかりの体制で行政は挑むべきではないかと、そう思うんですが、いかがですか。



〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

古畑議員のいつも持論でおっしゃっていただいている点については、そういう手法もあることも承知いたしておる次第であります。

しかし、今の体制の中において、私は部長制に引いてることによって、非常にその効果もあることは、私はでかいと思っております。まだしばらくの間は、このまま続けていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

あのね、ちょっとね、総務課のほうさ、3部長の人件費というのはさ、年間トータルすると幾らになりますか。それを今計算しておいてください。俺がしゃべったらやってくださいね。

でね、市長、思うんだけどさ、部長制というのは20年前につくった、合併と同時にね。あのときはさっきも言ったように5万人あったんですよ、5万人。それで青海、能生、それぞれの職員の方がやっぱり大量になってきて、それぞれのポストが、配置がうまくいかなかったんですよ。だから、3人の部長制にして、部制を引いた。あれは部長制をつくるために部長を選んだんじゃないんですよ。だから、各部の機能がうまくいってないんじゃないですか。

それから、円滑にとか言ってるけど、今回なられた大嶋部長、それから渡辺部長、五十嵐部長、任期はたった1年しかないじゃないですか。1年たったらなんですか、引退、引退というか定年になってしまうんですよ。この3人は3人も課長時代にすばらしい活躍もしているし、大嶋部長だって、前は産業部長で、これからやりたいことが出てくるはずだと。やりたかったこともたくさんある。これじゃ仕事を覚えるだけで1年間で部長終わりですよ。だったら課に残して、職員の皆さんと一緒に働いてもらったほうがいいじゃないですか。五十嵐部長はさ、どっちかという技術系で、建設畑ですよ。その方に農林や観光って、今からやれというのは、ちょっと私は逆効果だと思うんです。それよりも各部がそれぞれ競い合って、一人一人が政治家のつもりになって、市長にいろいろ献策をやっていく。予算もやっぱり要求していくって、それが部長制の最たるものじゃないわ、課長制の最たるものでしょう。

先ほどの数字出ましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田総務課長。〔総務課長 嶋田 猛君登壇〕

○総務課長（嶋田 猛君）

すいません、今ほど確認しておりますので、分かり次第、またこちらのほうで答弁させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

何か確認に大分時間かかっているようなんですけどね、今の件で、市長どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

今、古畑議員がご指摘いたしました合併当時、役職が余っているからつくったというような言い方をしますが、決してそのようなことはございません。私は、以前から、議員のときから、やはり部長制というのは必要だと思っております。そして、市長になったときに、市民部、産業部、そして総務部という中の、やはり課長を束ねていくコーディネーターも必要になるわけであります。副市長1名で全てやるわけではございません。そういうことを考えたときに、やはりいろいろとこの各部のそういった課題については、コーディネートしながらアドバイスを出していく。そして、一気に課長になっていくわけではございませんし、一気に部長になったわけではございません。職員として仕事を進める中において、いろいろとやはりこの職員間の調整だとか、また実際、いろんな事業の横の連絡、そういったものを経験してきておる職員でありますので、そういった公務員としての経歴、そして、そういったものを生かさせていただけると思っておりますし、また、対外的にも非常に、今いろんな糸魚川市は対応する部分がございます。そういったときに、やはりこの副市長であったり、私は、なかなか回らないところを各部長が対応している部分がありますので、私は、部長制としての効果は発揮いたしておりますし、対応しておる状況だと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

お言葉ですが、この部長制にやっぱり移行したほうが良いというのは、私の意見じゃないですか。私ですよ。まあいいや、どっちでも。意見が合ったということだね。

やはりそういったことも含めて、やはりあのときは、何ていうのか職員の数も、いわゆる合併ですから、たくさんいたわけですよ。その中において、それぞれの調整をつけるためにやった。誰がどう動くか分からないから、それぞれの部署の中のトップを決めてやっていこうということをやった。まあいいでしょう、その過去の話は。

それで、さっきの人件費の話は出ましたか。

○議長（松尾徹郎君）

今、確認中です。

○17番（古畑浩一君）

そんなに大変なの、大変。3人分で足せばどうなの、部長。決算ですよ。もうやったんだよ、今年じゃないわ、調べとるたって、あんだ。

〔「休憩お願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

〈午後 3 時 3 8 分 休憩〉

〈午後 3 時 4 1 分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田総務課長。〔総務課長 嶋田 猛君登壇〕

○総務課長（嶋田 猛君）

お時間いただきまして、申し訳ございませんでした。

部長 3 人で申し上げます。

給与等と、あと共済費、事業主負担等の分がございます。そちらを合計しますと、3 人で、1 年間で約 3, 1 5 0 万円となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17 番（古畑浩一君）

そんなに難しいこと聞いたわけじゃないんですけどね。やっぱり 3, 1 5 0 万円、やっぱり部長 1 人にね、大体 1, 0 0 0 万ぐらいかかるんです。だったら、その部長制を廃止して、よりコンパクトな、さらに行政の組織改革を実現して、職員を辞めさせろとか減らせというんじゃないですよ。今すぐ部長制をやめていただきたいって言うてるんじゃない。

ただ、来年の、いわゆる 3 月 3 1 日にはね、もう皆さん、いわゆる定年を迎えるわけだから、ちょうどいい機会なんで、組織を全部改革すればいい。これも突然言うてるわけじゃない。もうずっと何年も言い続けてますよね。それを何回言っても実現しないから、今言うてる。もうだから、そういうことも組織もやっぱりコンパクトにしていかなきゃ駄目ですよ。

それから、15 億円で建設予定の子育て支援複合施設ですけどね、これやっぱりね、こないだ、さっき室橋課長に言っておきました、解体費ではね、大幅な事業費の増額はあったわけなんですけど、そこをちょっとまとめて、もう一回言ってください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えをいたします。

旧東北電力ビルの解体費につきましては、当初、基本設計におきましては5,600万円という想定をしておりました。

ところが、詳細な実施設計を行いましたところ、その予算額が膨らみまして、6月補正予算でお認めいただいたところではありますが、9,800万円の予算ということで、75%の増額となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

議長ね、やっぱり、いいですか、15億円が全部こういうもの、経費も入れてかかるって、大丈夫ですかと今まで確認してきましたよね。けども、一番最初のさ、解体費でぼこんと上がる、76%も上がって、当初の見込みよりも完全にオーバーしてる。これ全体の子育て複合施設は、予算内に収まりますかね、ちょっと聞かせてください。想定どおりの施設が、想定どおりの予算でできますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えをいたします。

ただいま事業を進めております整備事業のほうにつきましては、DBO方式という形で進めさせていただいております。その中では、募集要項におきまして、設計等建設費用として12億4,200万円、また10年間に及ぶ維持費といたしまして5億円ということで金額の上限を定めさせていただきまして提案を受ける形となっておりますので、その範囲内で進めていきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

予算はこれからなんでね、当然上がるから、当初見込みの施設よりも、ある程度縮小を余儀なくされることになるでしょう。今、造ったキターレもそうでしょ。当初は2階建ての予定が、工事費の増大によって1階の平家になってますね。しかも議会がさ、承認した後の設計変更じゃん、そのとき私は議員じゃないですけどね。議員だったら当然責任を要求すると思いますよ、私はね。

それから、さっきの柏崎市の話ですけどね、ここはね、子育て支援センターに近いもの、同じような目的のものを造ってるんです。キッズマジックだそうですね。このキッズマジックは、ショッピングセンターの中にあったものを市が、いわゆる無料にして、遊び面積、プレー面積を倍にして、入場料も取らずに市営にして、そこで遊んでもらう。雨の日に遊べるところができてよかったなど

いう市民の声があるようですね、これからやるようなんですが。松尾議長も一緒に行かれて、この事業費のことを聞かれましたけれども。それね、結局いっぱいお金かかるんですかって聞いたらさ、15億円でできると言ってるんだよ、15億円で。ほかの様々な施設については、あのね、当初予算で478億円のうちだよ、こういう子育て関連だとかそういうものについて113億円を使ってるんです。だから、総合的に底上げをしてる。あらゆる事業のもので人口対策だとかそういうことに関連をして、関連づけて、やっぱりやってるんですよ。だから、これといった目玉はないかもしれないけど、総がかりのうちにやってる。あそこは大学が2つあるからね。そこに来ている若い人を何とか地元に残せば、何とか若い人の数はキープできるんじゃないかというね、なるほどなと思いました。糸魚川市は大学がないから、若い人を連れてくるところから始めるんだよ。

でだ、地元就職した女性、私の知ってるだけで3人ね、地元に残ってくれるって会社入ったんだよ。辞めて、東京行っちゃったんだよ。これも問題だと思いませんか。

糸魚川に何が足りないで、何が魅力がないのか、私は医・職・住と言ってきましたよね。そのそれぞれに魅力がないと定着してくれません。その辺は担当部署では分析されましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

まず、女性に限らず、若者が都会へ出ていく理由として、おっしゃるとおり都会への憧れというものも大きな理由であるというのを資料で見たことがございます。もう一点は、今ほど議員おっしゃられた進学を理由にした転出になるといったことであります。

したがいまして、なかなか憧れに対して、それを引き止めるということがなかなか難しいところかとは思っておりますけれども、今年取組の中で、例えばチル・ナイト・ミーティングなどで都会で行う、若者から集まってもらう中で、いろんな方々からも意見を聞きながら、どういった手だてが、そういった若者にとって帰ってくるきっかけとなり得るのかといったところも聞いていくというのが一つ。

それから、もう一点今考えているのは、糸魚川市で暮らすことが、都会で暮らすよりもいいところがあるんだ。幸せにつながる、ちょっと大まかになってしまいますけれども、糸魚川で頑張っている人、輝いている人たちを紹介することで、そういった取組が功を奏さないかといったところも考えているといったところになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これはね、さっきも言ったようにいろんな施策を打っていく。その効果をそれぞれの相乗効果的にやらない限り、1つの政策だけじゃ残りません。これね、徹底的にやりたいんですけど時間がないうでね、これは決算だとか、総務文教常任委員会の委員会の中でやっていきたいと思う。

ただ、その総合計画みたいなものをそろそろちゃんつくらないと間に合わなくなりますよ。もう誰もいなくなったから言たって、誰も残りはしないんだから。夢を求めていくんだったら、糸

魚川にいたって夢はかなえられるという、そういう施策を打たないと駄目なんですよ。具体的に言いたいですけど時間がないのでやめますが。

医・職・住って何回も言ってるけど、先ほど新保議員の質問の中にありましたが、糸魚川総合病院の経営危機など、やっぱりこれをどうしていくのかという問題があります。先ほどね、細かくいろいろご答弁いただいたんで私の場合は、それもこれからお聞きしていっていきたいと思いますが。あのね、思い切ってね、やっぱり公設病院を強く推進していくべきだと思いますよ。やっぱり指定管理病院だとか市立病院だとか、公立系にやっぱり糸魚川の病院を、病院、糸魚川だけ守れというふうに聞こえるかもしれないですけど。

いいですか、今の新潟県の医療構想でいくと、糸魚川は、結局、衛星都市になってしまいますよ、糸魚川は拠点から外れます。何か問題があったら上越の拠点病院へ行ってください。でも地理的と気候的にいったって、それは難しいって何回も言ってるでしょう。新潟県は、本当に糸魚川を新潟県だと思っているのか。新潟県の上越圏域の中には、病院の圏域の中には糸魚川は入ってないんですよ。入ってないと言うと語弊があるけど、そっちは富山圏域でしょって言われたんだよ、今までね、いろいろ陳情もやってきまして。そういったことについてどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

決して糸魚川は、新潟県の医療圏域から外れてるわけございません。7ブロックの中にちゃんと入っておる状況でございます。

ただ、医師の派遣のエリアが富山県だという、富山大学だということが違うだけであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

新潟県のエリアと言いながら、年間、新潟県から派遣してくる医師は1人か2人じゃないですか。専門的な診療課程だとか診療科目みたいなのは、どんどん減っていく。今後、厚生連が、いろんな部分で、やっぱり経営改善のために、今まで不採算だとか診療数がない診療科を、要するに削っていくという、なくしていくということは十分考えられます。やっぱりその辺の問題もたくさんありますけど、本当になくて困るもの、例えば産科だとか、人工透析に関わってる方だとか、皮膚科だとか。あのね、毎日、恒常的に使っているようなものが、診療科がなくなってしまうことを市民は大変心配されてます。だから、それをどう確保していくのか。病院任せ、厚生連任せにしたら、不採算部門をやっぱり削っていただけなんで、やっぱりそうじゃなくて早い時期に糸魚川としても支援をするからやってくれませんかという体制を持っていかなきゃ駄目。これをやらなかったのが姫川病院です。無理ですねと言った途端に倒産しました。

それからね、これから先、考えていきたいって言うけど、厚生連のほうの本体の話は、来年の4月には60億円の赤字になるって見込んでるんでしょう。来年の4月までに何とか、糸魚川市と

してもその対応を考えていかなくちやいけないって言ったら、考えるときは今じゃないですか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

来年の4月に60億の資金ショートがあるという発表いたしまして、そして、それについては、J A新潟厚生連が、今自分たちでそれを圧縮しようとしております。そして、当然その中で全てできればいいんですが、できない部分について、この関係自治体、そして県としっかりと支えていこうという今方針であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

その圧縮されるところが問題であります。私も病院のほうへ直接出向いて、お話をお聞きしました。大変緊迫した状況であると。病院の経営改革だけに頼るんであれば、さっきも何回も言ってるように、これまであったいろんな診察とか心療内科だとか、いろんなそれぞれの科目が削られていくだけになると思います。そのときになって困ったというんじゃないで、今からどうすれば残してもらえるかって話を真剣にやるべきです。

姫川病院の轍をもう一度、踏まないというんならば、今ですよ。それも早くはない。もう来年の4月の話じゃないですか。来年度予算の中に乗っけていかないと、それが執行できないということならば、今すぐやらないと間に合わないとは私は思いますので、よろしくお願いします。

次、権現荘のいろんな契約になりますが、契約の問題につきまして、権現荘の無償譲渡が、なぜ9,000万円をつけての譲渡なのか、いまだに納得できません。ご説明をもう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

今回の譲渡に関しましては、提案書を出していただいて、それを審査するという形になっております。その提案書を出していただく過程で、これまで市が取り組んでこなかった修繕に係る部分、エアコンですとかそういった部分の修繕に係る部分については、修繕をしないで渡すので、その分は財政の支援をしてもいいですよというような募集内容になっておりました。それによって、上がってきた内容について審査をした上で、また交渉をした中で、9,000万円で合意したもので、というものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

前にもさ、その説明をいただいたときにね、だったらば支援金ではなくて補助金にするべきだというふうに私は言いました。その件につきましては、ご検討いただいたんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

古畑議員からそのような補助金というご提言をいただいております。

ただ、これまで企画提案書ですとか、申合せ事項の中の言葉として、支援金というような言葉を使っておりました。それを使ってしまうと補助金にならないので、今回、仮契約書の中では、それを補助金という形に書き直して、補助金の形でお渡しするような形を取らせていただいております。それによりまして、これまでご提言いただいております、かかった費用の精算を9,000万円を上限にすることですとか、建物が、修繕が終わった後で支払いをするとか、そういったものに対応できるものというふうに思っております。

ご提言ありがとうございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

今のご答弁でね、少し安心しました。

ただね、やっぱり不思議なんですよ、じゃあこのアッサンさあ、本当に3億円以上もかけて改修できるんですか。それだけの能力ありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

これまでの企画書の提出の中でも、その工事内容について示されております。そういった項目については、3億円以上の項目が用意されておりますということと、今回の譲渡に関しまして、関連する企業から支援金があるということの文書も添付されておりますので、それらで対応できるものというふうに判断したということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

アッサンにつきましては資本金が100万円、そして、営業利益につきましては、決算につま



してはね、2,100万円の赤字。その翌年も500万円の赤字。こういうところにさ、資金というのはどうやって用意するんですか。銀行なんか絶対貸してくれませんよ。桁が違い過ぎる。本사가さ、出すというのをちゃんと明確に、その企画書たるものは何なんですか、私見たことないんだけど。見たことないものを信用しろって言うてるんですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

議員おっしゃられますとおり、経営状態があまりよくない状態であるということであるとか、資本金が少ない状態というのは、私どもも当初から確認しておりました。

そういった中で、今回の中で申請をいただいた中で、そこを審査する会というのもありました。同じような質問が続いておりました。そういった中でも、関連する企業からの資金提供をメインの財政としたいというような意見がありまして、それについても審査があり、今回それが順調に回るだろうということから判断させていたものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

銀行等も含めて、今回、譲渡する権現荘というのは、担保物件の価値はあるんですか。いや、価値はあると思いますが、担保物件になり得るんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えします。

これまで相手方と確認をしているところによりますと、各施設の担保としたような資金の準備ではなくて、関連する企業からの資金提供で行うということでございますので、今議員おっしゃられましたとおり、施設そのものには価値はあると思いますが、そういったものをメインに当てにしないで修繕し、経営をしていくものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

その後さ、工事の概要だとか、青写真だとか設計図みたいなの、もらいましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

企画提案の中では、今後10年の経営の財政状況ですとか施設の改善への修繕に係る費用の内訳、そういったものも頂いております。そういったものを見た中での判断をさせていただいたということでございます。

また、この後、実際に事業者が入ってきて、修繕等が始まっていくと思います。そういった中で、相手から出てくる資料があれば、可能なものは議会のほうにお示しをしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

議会のほうに示したいというなら、今見せてくださいよ。危なくて、要はどういう工事をやるのか。今回だってさ、何だい、4億円のリニューアル工事をやって、新しくした、その何だい、部分でしょ、西館のほうと本館か。今問題になった、ちょっと老朽が進んであれだって、東館には一銭もかけてこないんでしょう。それさ、ちょっとおかしいんじゃないですか。

それから、この工事というのはどこがやるんだ、どこがやるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

まず、平成26年、27年に行われました約4億円のリニューアル工事に関しましては、東館の部分については行っておりません。また今回、提案のありました屋根・壁の部分についても同様でございます。そういったものに対して修繕をするということで提案があったものでございます。

今もう一つ、企業ですね、実際の建設もしくは修繕に係る事業につきましては、今回もう譲渡するというのでございますので、相手方が決めることとなっておりますけれども、こちらのほうの条件として、可能な限り地元企業も使ってほしいという条件をつけているものでございます。

○17番（古畑浩一君）

今回、建設の範囲は西、東館じゃないよね。老朽化の進んでいる東館じゃなくて、本館と西館だろ、今回工事するの。

○議長（松尾徹郎君）

質問の場合は挙手で。

○17番（古畑浩一君）

確認、時間ないので。質問すると、時間止まるんだ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

先ほど申し上げましたのをもう一度整理しますと、4億円のリニューアルで実施しておりますが、本館の部分、要はフロント付近と西館をリニューアルしております。ですので、東館は4億円のリニューアルのときは手をつけておりません。一部を除いて、手をつけておりません。今回、その部分に係る分の修繕について財政支援をしようということですので、リニューアル部分と係る部分についてはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

もう9月から工事に入るという、常任委員会では、そういう説明でしたね。その工事の会社ってどこですか。一応、今までの中では、なるべく地元の会社を使ってほしいという話だったんですけど、それは履行されてるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

相手方の代表の方、またスタッフの方、あとメインとなる建設会社の方が、9月の中旬ということで先週を予定してたんですが、ちょっと遅れてるようでございますけども、現地に入る予定になっております。その場所で、今後の建設の方針ですとか、そういったものを聞く予定となっております。

○17番（古畑浩一君）

こっちは工事の相手方はどこなんだって聞いている。北海道のアッサン。

○能生事務所長（高野一夫君）

今来られるのは、北海道の企業だというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

工事9月から始めるというのに、これから会うというだけなのか、どうも納得できないな。

それからさあ、この会社、委員会の審議のときに決算を出すという話が、事故があつて決算が出せないって話だよ。その事故というのは何なんですか。そして、その決算は、しっかりとした黒字になってるんですか。どういう格好になってるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

まず、1つ目、お答えいたします。

建設のお話でございますが、これまで譲渡の提案のその時期、提案をされている時期から既に何回か事業者の方が現地に入っておりますので、それに対する最終確認だというふうに思っております。ですのでなるべく早い時期から改修が進むものと思っております。

もう一つ、27日、建設産業常任委員会で提出できなかったのは、仮契約書でございます。こちらにつきましては、相手方のちょっと事務の都合でということでございますので、何か財政上のトラブルですとか、何ていいますかね、いろんなトラブルがあったわけではなくて、会社の内部事情というふうに聞いております。

それで、それにつきまして先ほど説明いたしましたとおり、建設産業常任委員会の翌日、28日には締結をさせていただいているものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

9月の中旬に来るといというのは、まだ来てないとか、契約書を出すという日には守れなくて翌日出すとか、ちょっと会社のさ、契約に対する態度といのは曖昧といのか、でたらめなんじゃないですか、これ、どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

今来られる日程ですとかそういう提出には、少し日に差がございますけれども、日々メールですとかそういったもので細かい打合せはさせていただいておりますので、順次前へ進んでいるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それではお聞きしますけど、この3億円の改修計画、さらに10億円の開発計画ってのが、最初ありましたよね。これが一体どこに関わっているのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

企画提案の中で、3億円を超える修繕の提案が入っているものでございます。それは先ほど申し

上げました金額の内訳とかも頂いているものでございます。

10億円と申しますのは、資金援助のお話でございますので、そちらのほうにつきましては、今回アッサンが事業を行う上で、関連企業の日成産業様が資金を提供するという内容が、企画書の中に挟まれているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

企画書の中に挟まれてるって、一番大事な問題じゃないですか。結局さ、私たちが契約するのは、アッサンを信用してじゃなくて、その後ろにいる親会社の日成産業を、要するに信用してやるわけでしょ。だったら、甲、乙、丙と前も言ったけど、その日成産業の立場というのは契約書の中に明確に盛り込むべきであると、こういうふうに申し上げましたけど、それについては履行されましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

そちらの提言をいただいていることは、十分承知しております。

ただ、今回の譲渡に関しましては、糸魚川市からアッサンへの譲渡の契約になりますので、仮契約書の中でも、糸魚川市とアッサンしか出てこないことになります。

ただ、その契約書の中には、提案書の内容を遵守するというような項目が含まれておりますので、その辺のところ担保されるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

やっぱりその辺をもっと明確に、覚書でも何でもいいから契約書に付随する、属するものを、やっぱり別紙のとおりとか、その別紙にちゃんと書いてあるとか、相手の会社の判こを押してあるとか、何かそういうものがない限り危ない。

それから、私たちがなりきにね、弁護士にこの契約書を見てもらいました。

しかし、この契約書は、営業日など、年何日以上とか何十日以上、何百日以上営業すべきと全く書いてありませんね、どういうことですか、これは。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

私どもも、今回の仮契約書につきましては、市の弁護士に相談をさせていただいてつくっております。今おっしゃられるようなこともあるかと思えますけども、今回10年間の継続した日帰り運営ということでございますし、宿泊等を考えますと、必要以上の間引きの営業ですとかそういったことは不可能かというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

10年間の営業実績であればいいです。毎日やらなくたって、1週間、日帰り温泉にしたって、毎日やらなくたって人の来る、土曜日とか日曜日だけやっとならばいい。そうすれば人件費だつてなんだつて電気代だつてかかりません。そういうことができるんですよ。そういうことを全くしないでくれという自信ありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

そういったことにつきましては、これは企画提案書の中で、宿泊おおよそ幾らでやって、何日間営業、おおよそ日帰りが幾らであって、何日間営業するというのがありますので、そういったものの中で年間の営業は確保できるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

そういったことが書かれた企画書って、一切出してこないですね。何か企んでるんですか。何で隠蔽するの。大事な、この仮契約書の基になる企画書でしょ、プレゼンテーションの。それがないまま、こんな中途半端な、そこには書いてませんが、こっちには書いてあります。でも書いてあるほうは見せません。そんなばかな話、ないじゃないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

相手の運営の計画の書類になりますので、相手のノウハウというのもあります。ですので、公開できるものを抜粋した中で、皆様方に公開させていただいているものでありますので、ご理解いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

理解できるものではありません。さらにね、解体、改修、営業が困難で廃業となった場合、施設は本当にその会社が解体してくれるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

今回、仮契約書の中の文言かと思えますけども、そういったもので解体をし、更地にするという文言が書かれています。これにつきましては、10年間の経営を関連企業の方が資金提供するという約束の中で行われておりますので、そういったものの中で、万が一の場合も履行されるというふうに思っております。

また、10年先、その先につきましては、なかなか今の状態では契約が難しい状態にありますので、また近く、その時期になって、そういうことが起こる可能性があるようであれば、また、両者で話をする機会をつくりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

やっぱりそういったことも契約書の中に盛り込んでいかななくてはいけないです。

契約書というものは、やっぱりそういうもんですよ。何か問題あったら後で話し合えばいいじゃんとか、言ったとか言わないとかって、そんなことがないように契約書を交わすんです。やっぱり詰めが甘いと思うし、それを通す議会も議会だけど、本当にもっと真剣に、これ市民の財産ですよ。もう時間がないですからあれですけど、また決算のほうで聞きますけどね。

これまで権現荘だけ6億、7億も使ってきて、それ全部、市長の経営責任じゃないですか。そのときの社長は、市長、あなたですよ。当然、市長、社長ならば、経営責任問われてきますよ。かかったお金につきましては、どうぞポケットマネーで弁償してください。たしかそう言いましたよね、リニューアル4億円するとき、この施設を必ず黒字にする。年間2,000万円の黒字を出すと、私にそう言いましたよね。駄目だったらポケットマネーで出せよと言ったら、はいと言いましたよね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり経年劣化とか時代の流れ、誘客ニーズが変化してくる中においては、旅行業というのは、ある程度リニューアルをしていかなくちやいけないという中で取り組ませてもらったものであります。ご承知のとおり、2年間の経営をもって、そして黒字になったときに指定管理にしていくという形でやってきました。それは、やはり議会の要望の中にもあった事柄であるわけでございまして、1年で黒字になった部分があるので、やはり1年でも早くそういった形に持っていきたいという形

で指定管理いたしたわけでございます。4億の老朽化したそのリニューアルにおいて、やはりこのコンサルのやはり調査の中で、そういった指摘もあった部分について取り組んだものでございます。決して、そして最後は赤字になったの、おまえのポケットマネーで出せというようなことは、条件の中に、また指摘の中に、言ったかもしれませんが、私は、はいというような答えはいたしておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

あの委員会の中でも、たしか市長か織田副市長が、そうやって発言してますね、分かりましたと言って。ただ、それだって、言った、言わんの話になってきますね。

契約書というのはさ、すべからくそういうもんですと。言った、あのとき言った、言わないって話になってしまう。それから、その企画書だって、本当は早く見てください、本契約する前に。

○議長（松尾徹郎君）

時間が参りました。

○17番（古畑浩一君）

はい。やっぱり契約につきましては、慎重にやるべきだと思います。

終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

本日は、これにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後4時16分 延会〉